６徒然草（兼好法師）

　だし野の露きゆる時なくの立ち去らでのみ住みつるならひａならば、いかにもののあはれもなからん。世はさだめなきこそ、いみじけれ。

　命あるものを見るに、①人ばかり久しきはなし。かげろふのベを待ち、夏ののを知らぬもあるぞかし。つくづくを暮らすほどだにも、こよなうのどけしや。あかずしと思はば、を過ぐすともの夢のこそせｂめ。住み果てぬ世に、みにくき姿を待ちえて何かはせん。命長ければ多し。②長くともに足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるベけれ。そのほど過ぎぬれば、かたちを恥づる心もなく、人にでまじらはん事を思ひ、夕ベのに子孫を愛して、ゆく末を見んまでの命をあらまし、ひたすら世をむさぼる心のみ深く、もののあはれも知らずなりゆくなん、あさましき。　 　（第七段）

＊語注

＊あだし野…京都市の奥にあった墓地。

＊鳥部山…京都市東山にあった火葬場。

問１　＝　線部ａ、ｂの助動詞の意味と文中での活用形をそれぞれ答えよ。

ａ＝意味〔　　　　　　　　〕〔　　　　　　　〕形

ｂ＝意味〔　　　　　　　　〕〔　　　　　　　〕形

問２　――線部①の意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　人間ほど無常なものはない。

イ　人間ほど長生きするものはない。

ウ　人間であっても生き残ることはできない。

エ　人間だけが生き続けることができる。

問３　――線部②について、次の〔　　〕を埋めて現代語訳を完成させよ。

・長くても〔　　　　　　　　〕くらいで死ぬのが、

　 〔　　　 　　 　　　　　　　〕だろう。

問４　本文の内容を的確に表している一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

〔　　 　　　　〕

【解答】

問１　ａ＝〔意味〕断定・未然〔形〕

　　　ｂ＝〔意味〕推量・已然〔形〕

問２　イ

問３　〔長くても〕四十（歳）に足りない〔くらいで死ぬのが、〕見苦しくない〔だろう。〕

問４　世はさだめ

現代語訳　　あだし野の露が消える時がなく、鳥部山の煙が立ち去らないでいるようにいつまでも生き続けることができるさだめであったなら、（人生は）まったく深い情趣もないことであろう。この世は無常であるからこそ、すばらしいのだ。

　命があるものを見ると、人間ほど長生きするものはない。かげろうが夕方を待って（死に）、夏の蟬が春や秋を知らない（というような）こともあるのだ。しみじみと一年を暮らす間だけでも、このうえなくゆったりしたものであることよ。じゅうぶん満足せず惜しいと思うならば、千年を過ごしても一夜の夢の（ように短い）気持ちがするだろう。いつまでも住み続けることができないこの世に（生きながらえて）、（自分の）見苦しい姿を待ち迎えて何になるのか。命が長ければ（それだけ）恥（をかくこと）も多い。長くても四十（歳）に足りないくらいで死ぬのが、見苦しくないだろう。その年（＝四十歳）を過ぎたら、容貌（の醜さ）を恥ずかしく思う気持ちもなく、人の中に出て交際するようなことを考え、夕日の傾きかけたような老齢で子や孫をかわいがり、（その子や孫が）立身出世してゆく将来を見とどけるまでの命を願い、ただもう命を欲しがる心ばかりが深くなり、（この世の）情趣もわからなくなってゆくのは、嘆かわしいことだ。